

東京医科大学病院 人工透析センター

東京医科大学 腎臓内科学講座 主任教授
菅野 義彦



図1 2013年8月に落成した新教育研究棟
15階建ての建物に図書館、大教室、学生自習
室、医局、研究室などが入っている。

東京医科大学は1916年に創設された歴史のある大学で、三年後の創立百周年に向けてさまざまな事業が始まっており、学内は活気にあふれています。本年8月には新教育研究棟(図1)が落成して医局や研究室が新しい環境に移ったほか、新病院棟(図2)の建築が予定されています。新病院棟は東京メトロ西新宿駅から徒歩になる予定で、アクセスに恵まれた東京都心のすばらしい病院になると期待しています。

東京医科大学病院では1970年に透析室が設置されました。第二外科(現心臓・血管外科)、第二内科(現循



図2 2016年完成予定の新病院棟
個室中心で満足度の高いアメニティ環境が提供されると期待されている。



図3 腎臓内科学講座の医局員
優れた内科医の育成に力を注いでいる。

透析施設を訪ねて



図4 血液透析をはじめオンラインHDF、血漿交換、免疫吸着、白血球除去など各種の血液浄化法を施行している。



図5 腹膜透析外来は透析センター内に設置されており、若手医師も外来診療に参加している。



図6 各職種が特性を活かして日常業務にあたっており、互いに教え、学びあう環境を大切にしている。

環器内科)、泌尿器科が協力して運営しておりましたが、1992年に中尾俊之現名誉教授が着任されて人工臓器部が運営の中心となりました。その後、人工透析部、腎臓科、腎臓内科と改名されてくるとともに、徐々に医局員も増えて診療科として地域の慢性腎臓病・腎不全対策の基幹施設として認知されるようになりました。2013年4月に筆者が着任してからは、高血圧症、慢性腎臓病、維持透析、急性血液浄化と広い専門を活かして、total nephrologyをモットーにした地域の腎不全診療システムを構築し、東京医科大学病院をその中心施設の一つとすべく熱意を持って診療に取り組んでいます。また6月からは大学の正式な腎臓内科学講座として発足し、教育、研究活動にもより一層力を注いでいます。医局員は現在15名ですが、半数以上が五年目以下の若手医師で、平均年齢が33歳という学内でも際立って若い部署です(図3)。

現在の人工透析センターは血液浄化ベッドが13床あり、血液透析は年間200～250例、特殊血液浄化(血漿交換、吸着療法など)は年間30～40例施行しています(図4)。新規透析導入は年間70～80例です。腹膜透析(CAPD)も導入、維持診療を行い、現在約30例を管理しています(図5)。

腎臓内科医師のほか、透析療法指導看護師2名を含む看護スタッフ7名、病院内のMEセンターから臨床工学技士6名、看護助手1名がそれぞれの職種の特性を活かして従事しています(図6、7)。管理栄養士は透析室に常駐していませんが、院内の栄養管理科から固定されたメンバーが腎臓内科外来、腹膜透析外来、血液透析外来、入院患者のすべてを担当しており、継続性のある指導が可能になっています。

腎臓内科領域の診療は、未完成な分野とほぼ完成している分野の差が大きいため、施設として診療の特徴を出すのが難しいのですが、東京の西半分という広い診療圏を持つとともに、新宿・渋谷・中野・杉並という人口の密集した地域の大学病院として、患者さんやご家族だけでなく、地域の先生方や医療に関わる方々に



図7 人工透析センターのスタッフ

安心感を提供できるような、「東京医大の腎臓内科にかかっていれば(任せていれば)大丈夫だ」と言っていただけのような診療を心がけています。

東京医科大学には今回紹介した新宿の大学病院に加えて、研究環境にも恵まれた八王子医療センター(東京都八王子市)、透析患者管理数が非常に多い茨城医療センター(茨城県)の二施設にもレベルの高い腎臓内科があります。相互に交流を図りながら、腎臓領域において東京医科大学から良質な情報発信ができるよう懸命な活動を行っています。

〈お問い合わせ〉

東京医科大学腎臓内科学

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1

TEL : 03-3342-6111 内線 : 5001

FAX : 03-3342-2650

E-mail : jinzouka@tokyo-med.ac.jp